

「ICTを活用した生活支援型 コミュニティづくり」

平成24年度 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

「ICT(情報通信技術)を活用した 生活支援型コミュニティづくり」



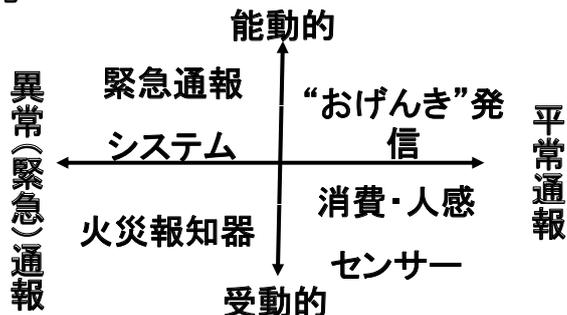
平成25年2月27日第2回領域シンポジウム

研究代表者: 岩手県立大学
社会福祉学部・ 教授
地域連携本部・ 副本部長
小川晃子

1

基盤となる「おげんき発信」の取り組み

- 高齢者が能動的に「今日もおげんきです!」と家庭用の電話機から発信する仕組み
- 岩手県立大学のプロジェクトが地域と連携し開発
- 平成15年度から川井村において、Lモード電話機を使って実証実験
- 平成21年度から、岩手県・岩手県社会福祉協議会とともに、家庭用の電話機から発信する仕組みを実証実験
- 平成22年度から岩手県社協と青森県社協が、市町村社会福祉協議会を見守りセンターとして事業化

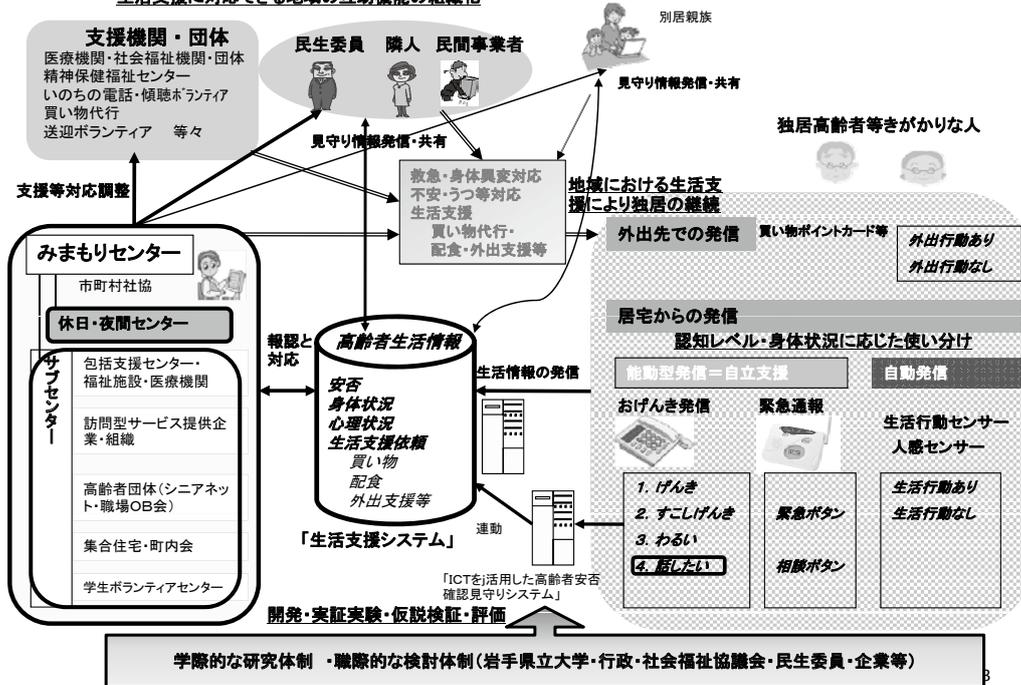




東京のシンクタンクで研究員業務に就きながら1994年日本社会事業大学社会福祉学研究科修士課程修了。1998年に開学した岩手県立大学社会福祉学部の講師に転職。2006年博士（心理学）取得。2007年Lモードを活用した安否確認システムで日経地域情報化大賞の日本経済新聞社賞を受賞（共同）。2008年教授、2010年地域連携本部副部長（兼務）。主著「高齢者へのICT支援学」川島書店（2006年）。

「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」実証実験の概要(全体)

生活支援に対応できる地域の互助機能の組織化



フィールド

滝沢村
郊外ス
ロール型

盛岡市・
松園地区
ニュータウン型

盛岡市・
桜城地区
都心型



赤線内面積 1,631.86km²
(比較:香川県 1,876.47km²)

IWATE 面積:
15,278.86km²



宮古市・川井地区
(旧川井村)
過疎・高齢化進展型

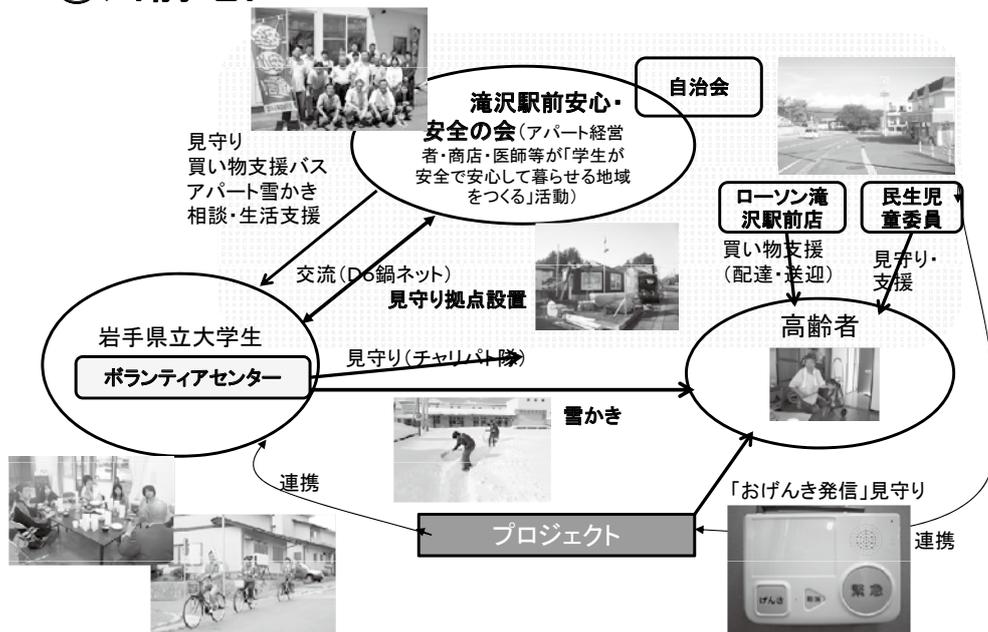
出典) 岩手県庁HP
をもとに作成。
注) 平成18年1月10日
現在の市町村状況

フィールドにおける進捗状況

地域	地域性	みまもりセンター(モニター数)	生活支援の方策
滝沢	郊外スプロール型 人口5万人の村。岩手県立大が立地し、行政の協力度が高い	社会福祉協議会(50)	民生委員との連携、有償・無償のサービス連携
		滝沢第2みまもりセンター【緊急通報一体型】(20)	緊急通報との一体化を図り、民生委員による生活支援と連携
		川前みまもりセンター(21)	学生ボランティアセンターの見守りや雪かき支援等と連携
松園	ニュータウン型 昭和40年代から開発された人口約2万人の盛岡市郊外の団地	社会福祉法人育心会(16)	民生委員との連携。社会福祉法人が受託している配食・ホームヘルパーによる生活支援と連携。
桜城	都心型 盛岡駅前で集合住宅を中心に孤立死対策に取り組んでいる地域	盛岡駅西口地域包括支援センター(17)	民生委員との連携。 今後は、マンション管理人室をみまもりセンターにする案や、宅配便による買い物代行との連携も検討中。 盛岡市と市営住宅でのセンサー実験開始。
宮古市 川井	過疎・高齢化進展型 旧川井村。東京23区の面積に約3千人居住。高齢化率40%超。	社会福祉協議会支所(38)	民生委員によるサブセンターができ、家業(米屋)による買い物代行支援。 患者送迎バス等との連携で交通弱者への支援策を検討中。

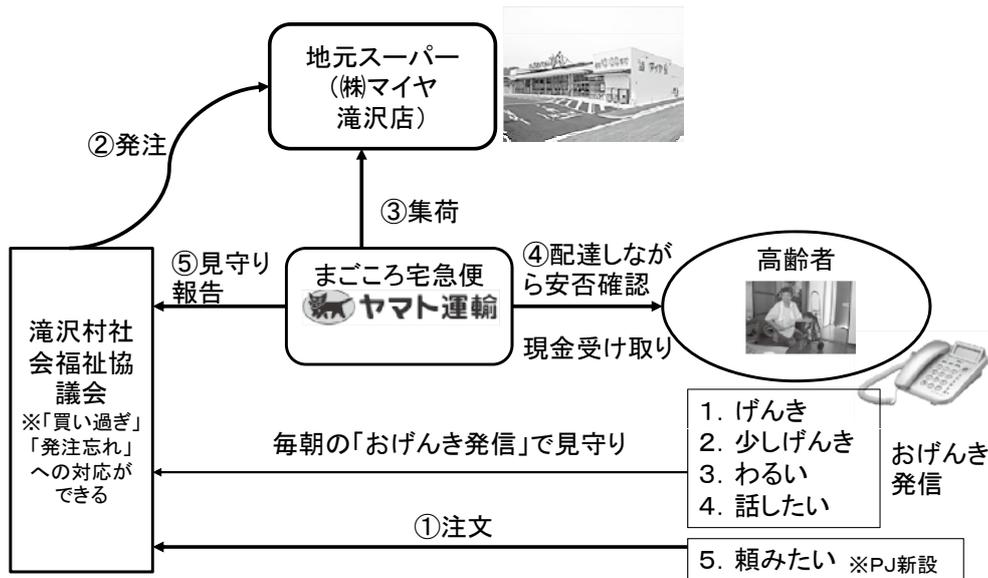
滝沢村での取り組み例

①川前地区



滝沢村での取り組み例

②買い物支援策（社会実験準備中）



PJ終了後の継続・成果普及

- ①岩手県・青森県内では社会福祉協議会の事業と連携し継続・発展
- ②震災復興研究に成果移転
仮設住宅等における孤立防止と生活支援・コミュニティの再構築（釜石・田老・大槌等）
- ③同じ領域の他PJとの連携（高知県梶原等）
- ④「おげんき発信」、「緊急通報システム」、「センサー」との一体化は、携帯電話やLANを利用して、他地域で展開予定
- ⑤買い物支援策は、ヤマト運輸の「まごころ宅急便」として広域で展開中